

貴重な経験を通じて

アンデルセン博物館などの歴史ある施設の見学、学校施設などでの現地の方との交流、ホストファミリーとの生活など、貴重な経験をしてきた棟方さんと森川さん。

海外で生きた英語を体験したかった棟方さんは、「派遣当初は辞書を引きながら会話していました。時間がかかって会話がスムーズに進みませんでした。途中から、多少間違った英語でも思ったことを積極的に伝えるようにしたところ、きちんとコミュニケーションを取ることができるようになりました」とデンマークでの日々を振り返ります。

海外の方との会話に抵抗がなくなったと話す棟方さんは、帰国後、A.L.Tと英語を使って楽しく会話ができるようになり、リスニング力も上がったと言います。

「ホストファミリーとはすぐに打ち解けたし、帰る日は本当に寂しかった」と話すのは森川さん。

「親元から離れてデンマークに行くということは勇気のいることでしたが、意外と何とかなるものでした。そのような経験から、もっと色んなことに挑戦したいと思うようになりました」。

日本に戻って来てからは、生徒会の副会長に立候補し、当選。現在では、勉強や部活動、生徒会活動と忙しい毎日を過ごしています。棟方さんと森川さんは「多くのことを学んだかけがえのない時間となりました。参加して本当に良かったです」と話してくれました。なお、市は平成29年度派遣交流事業の参加者を募集しています。詳しくは20ページをご覧ください。

自分の知らない世界をもっと見てみたい

「国外にもすばらしい文化などがあることを実感しました。より多くの国のことが知りたくなり、ニュースなどで世界の動きに目を向けるようになりました」と話す棟方さんは、将来、留学経験を、さまざまな国で仕事してみたいと考えているそうです。

森川さんは、「派遣前からパイロットになりたいという夢がありました。派遣を通じてより一層強く思うようになりました。世界を飛び回って、もっと世界を見て回りたいです」と話します。

棟方さんと森川さんは、現在、熱心に英語の勉強を行うなど将来の夢に向けて突き進んでいます。



KIRARI

むね かた とも か
棟方智華さん (柏木町)

もり かわ かい き
森川海輝さん (富岸町)

登別の友好都市である『ファボー・ミッドフン市』（デンマーク王国）との交流は、登別マリンパークニクスのニクス城が、同市にある『イーエスコー城』をモデルに建設されたことがきっかけで始まり、平成9年には『友好の絆』を取り交わし、今年で20周年を迎えました。『絆』を取り交わす5年前、市は平成4年度から、市内中学生をデンマーク王国に派遣する交流事業を毎年行っています。

平成28年度には、市内8人の生徒が派遣交流事業に参加。7泊8日の日程で貴重な経験をしてきました。今回は、平成28年度に派遣団のリーダーを務めた棟方智華さんと森川海輝さんに、デンマーク派遣を通じて感じたことや学んだことについて伺いました。



▲チボリ公園前 (左) やイーエスコー城前 (右) で記念撮影をする平成28年度の派遣交流団



- ◎棟方さん (左) 平成15年、登別市生まれ。13歳。幌別西小学校を卒業後、平成28年に西陵中学校に入学。生徒会の会計長として、さまざまな活動に取り組んでいる。
- ◎森川さん (右) 平成15年、室蘭市生まれ。13歳。富岸小学校を卒業後、平成28年に緑陽中学校に入学。バスケットボール部の一員として、文武両道に励んでいる。

自分が知らない文化や街並みを自分の目で見てみたい